

魂の弁論、聴衆の心に届く～市弁論大会～

校内弁論大会で最優秀賞に選ばれた二人が、7月6日（木）、桐生市立中央公民館で行われた桐生市弁論大会に出場しました。結果は、3年5組の新井梨羅さんが最優秀賞、3年3組の大野亜海さんが優秀賞に輝きました。新井さんは8月19日（土）に館林文化会館で行われる予定の第39回少年の主張東毛地区大会に、最優秀賞に輝いた他の中学校の3名とともに出場することとなりました。二人とも見事な弁論を行い、聴く人の心を引きつけました。

「誰かのために」 大野 亜海

みなさんは、目の前に困っている人がいたらどうしますか。その人のために何かしようとしますか。誰かと協力して解決しようとしますか。それとも、見て見ぬふりをしますか。このように聞かれると、深く考えてしまうかもしれませんが、私達は、ほぼ毎日意識しないうちに答えを出しているのです。たとえば、誰かの筆箱が落ちた時に、拾うか拾わないか。友達が転んでしまった時、助けるか助けないか。私は、このような場面をたくさん経験してきましたが、いくつか忘れられない出来事があります。



小学校五年生の夏休み、私は風邪を引いてしまい、母と病院へ行きました。待合室には患者がたくさんおり、その多くは高齢者でした。しばらくして、私の隣にいた車椅子の高齢の女性が呼ばれました。その方は、自分で車椅子を動かそうとしていました。付き添いの方もおられたので、私は心配いらないなと思い、本を読んでいました。するとすぐに、大きな音がしました。見ると、車椅子の女性が椅子から落ちて床に倒れていました。私は、何とかしなければと思い、母に話しかけました。しかし、その時母はもう、倒れた女性の方へ小走りで向かい、「大丈夫ですか。」と話しかけていました。付き添いの方と協力して助けていた母の姿は、今でも忘れられません。その姿を思い出すたびに、自分が情けなく感じます。進んで人の為に行動できなかったからです。私と母は、行動するまでの判断力が確実に違うのだと思いました。母は、ためらいなどなく、目の前の人の為に進んで手助けをしているように思えました。

その日から、母のように、正しい判断を素早く行い、進んで行動することを意識するようになりました。どんなに小さな事でもいいから、進んで行動しようと毎日思い、実行していくことで、少しずつ、進んで行動することの大切さに気づいていきました。また、部活動を通して学んだこともあります。

中学一年生になって二ヶ月がたち、部活に慣れ始めた頃、よく先輩から「一年生、行動が遅い。」と怒られていました。この時の私は、与えられた仕事だけを進んで行い、仕事を減らすことを考えていました。でも、先輩から怒られたことによって、進んで行動するというのは、自分から仕事を見つけていくことなのだ気づきました。実際に、自分から進んで仕事を見つけ、行動していくことによって、「ありがとう。助かるよ。」と笑顔で言ってもらえるようになりました。

進んで行動するのとならないのでは、大きな違いがあります。また、ありがとうと言ってもえたり、笑顔で話しかけてくれたりすると、嬉しい気持ちになりますが、怒られたり、冷たくされたりすると、誰でも良い気分ではなくなります。相手や自分の気持ちも左右されることが分かります。

私は、このことに気づく前まで進んで行動することに恥ずかしさがありました。でも、進んで行動することは、全く恥ずかしいことではありません。私たち、中学生は、他とは違うことを恐れたり、みんなと同じことで安心したりしやすいのです。日本人は、自己主張が苦手だということを以前テレビで見たことがあります。確かに、周りに合わせないと悪口を言われたり、いじめられたりするかもと不安になると思います。でも、自己主張をしないと、もし周りの人たちが悪いことをやろうとしていても、それを止めることができなくなってしまふと思います。これらのことを踏まえて、集団の中から一歩前を歩く勇気を一人一人が持つて欲しいです。私自身、部活でみんなより大きな声で数えたら、だらけた空気を変えるこ

とができました。一步前に出て行動をするというのは、これから大人になるにつれて、もっと大切になってくると思います。正しいこと、やるべきことに、ためらいや迷いを捨て、周りに流されずに自ら行動できる人が、一人でも多くいて欲しいです。私達は、まだ中学生です。大人になる前に、このような行動をたくさんして欲しいです。そうすれば、十年後、二十年後には、自分のためではない、誰かのために進んで行動する人が増え、思いやりあふれる明るい街になるでしょう。

みなさんの小さな勇気を集めて、この街に大きな希望を作りませんか。
ご清聴ありがとうございました。

「ペイ・フォワード」 新井 梨羅

ここにいるみなさんは、今日が人生の最後の日だったら何をしますか。行きたい場所に行ったり、会いたかった人と会ったり、趣味に残り時間を費やしたり、普段通り過ごしたり、最後の時間の過ごし方は人それぞれだと思います。

「死」というものは突然です。いつ誰が何処でどのように生涯を終えるかは誰も知りません。もしかしたら明日、大切な家族が、大好きな友達が、可愛がっているペットが、もしくは自分が死んでしまう可能性だってゼロではないのです。人生は永遠に続くように感じますが、いつか終わりはやってくるのです。ニュースを見ると殺人事件や事故、火災など、悲しいニュースが次から次へと流れていく日も珍しくない世の中です。そんな状況で生きているみなさんは、何をすべきだと思いますか。私は、今ここにいるみなさんにしてもらいたいことがあります。それは「ペイ・フォワード」です。

ペイ・フォワードとは、自分がいいことをしてもらった時に、その善意や思いやりを他の誰かに別の形で広げていくというものです。自分が思いやりを受けた時、その相手に対して感謝の意味も込めてお返しをして終わるのが一般的です。しかし、ペイ・フォワードは思いやりを受けたら、その相手ではなく、別のの人に別の形でいいことをして、またいいことをしてもらった人が、別の人にいいことをして・・・とどんどん広げていくのです。たとえば、自分が道に迷ってしまったとします。そうしたら知らない人に声を掛けられ道を教えてもらいました。この時の感謝の気持ちを忘れずにいます。しばらくしたら、道に帽子が落ちていました。それを交番に届けます。これがペイ・フォワードです。消しゴムを拾ってもらった友達に「大丈夫？」と手を差し伸べる。お母さんが好きなお菓子を買ってくれた時、募金箱に十円を入れる。雑巾がけを手伝ってもらった後に、水道が混んでいたのに急いでいる人に順番を譲ってあげるなど小さな事でも構いません。私は小学五年生の時に転校してきたのですが、新しい学校に不安な私にたくさんの友達が話しかけてくれたことを今でも覚えています。その時の嬉しさを誰かに味わって欲しいと思ったことがきっかけで、ペイ・フォワードを知りました。転校した際に話しかけてもらえたことが嬉しくて、翌日、習い事に新しく入ってきた子に分からないことを教えてあげたのが私の最初のペイ・フォワードです。

日本には、約一億三千万人ほどの人がいます。一人が三人にペイ・フォワードをしたら、三人が九人に、九人が二十七人に、二十七人が八十一人に・・・とどんどん広まっていき、いずれ一億三千万人も人がペイ・フォワードを体験したら、きっと思いやりあふれる素敵な国になっていくと思います。逆に、自分がされてイヤなことは絶対に他の人にはしないというイヤな思いや悲しませる言葉の連鎖を自分で断ち切ることができれば、人を思いやることができる、より素敵な人間になれると思います。この負の連鎖を断ち切り、ペイ・フォワードを広めることで、ニュースを占領している悲しい事件やいじめ問題もなくなっていくのではないのでしょうか。

悲しいニュースがあふれる世の中、ただ自分のことだけを見据える一本道を歩く人生ではなく、悲しいニュースを自分達で断ち切り、誰もが生きていて良かったと思えるような未来への道を歩いて行く、素晴らしい人生にしませんか。

みなさん、今日が人生最後の日だったら何をしますか。そう言われたら、私は行きたい場所に行つてその場所で出会った人たちに残りの時間で、ペイ・フォワードを広めていきたいです。なぜなら、自分の知らない街や土地でも、自分がしたペイ・フォワードでいろいろな人と嬉しい気持ちを共有できるように感じるからです。今はネットで気持ちを共有することも多いですが、私はペイ・フォワードで共有する気持ちの方が新鮮で心にグッとくるものがあると思います。そして、第一に家族や友達、未来の日本のためにも、思いやりを大切に、しっかりと生きることが私達がすべきことだと思います。

みなさんも一緒に作り上げませんか。ペイ・フォワードでつなぐ思いやりあふれる人生を。

ご清聴ありがとうございました。

